

# 観光庁説明資料

令和5年9月6日（水）

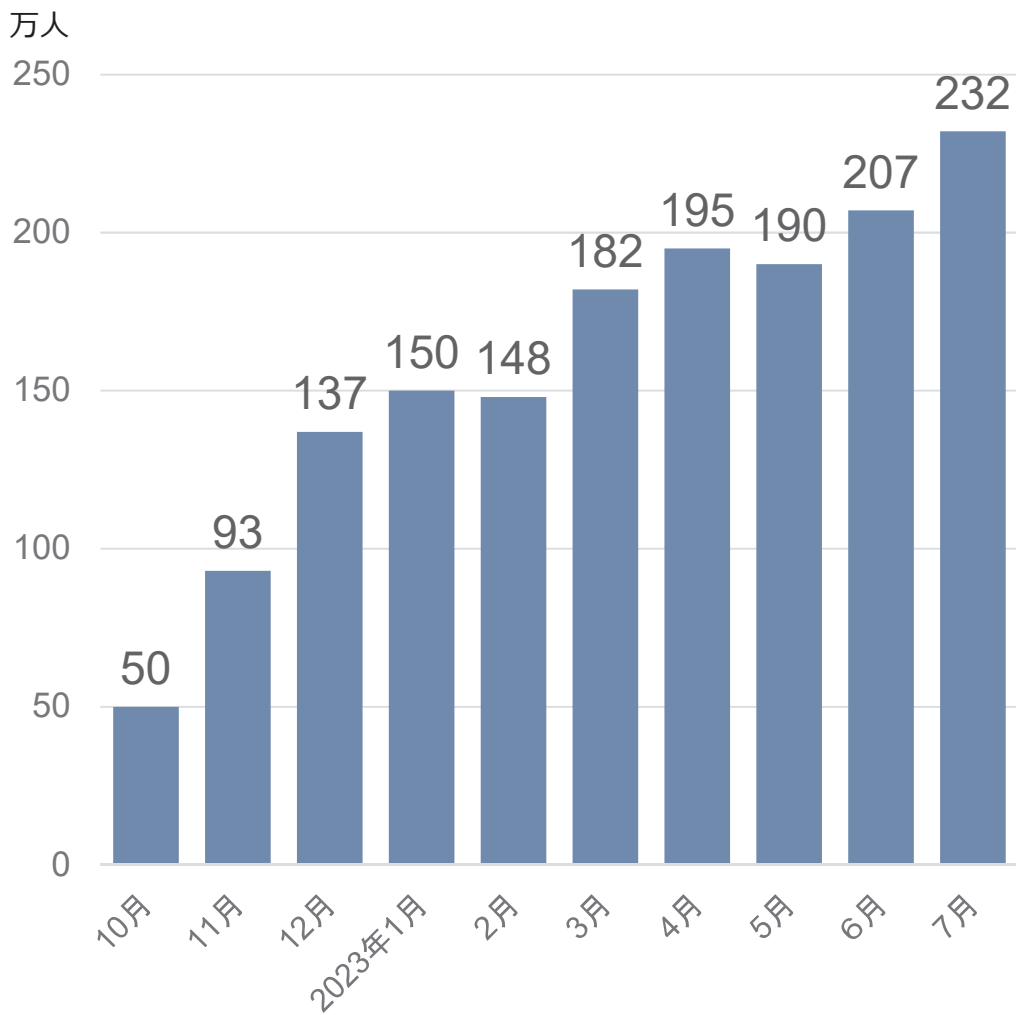
オーバーツーリズムの未然防止・抑制に関する関係省庁対策会議  
（第1回）

- 1. 観光需要の動向**
2. 観光客の増加に伴う課題
3. これまでの対策

# インバウンドの回復状況（旅行者数）

- 7月の訪日外国人旅行者数は約232万人と、コロナ前と比べ**78%の回復**（中国からの訪日を除くと**103%の回復**）。
- 昨年10月の水際緩和以降で、中国からの訪日客数を除く単月の回復率が初めて100%を超えた。

## 月別



## 国・地域別訪日者数上位（2023年7月）

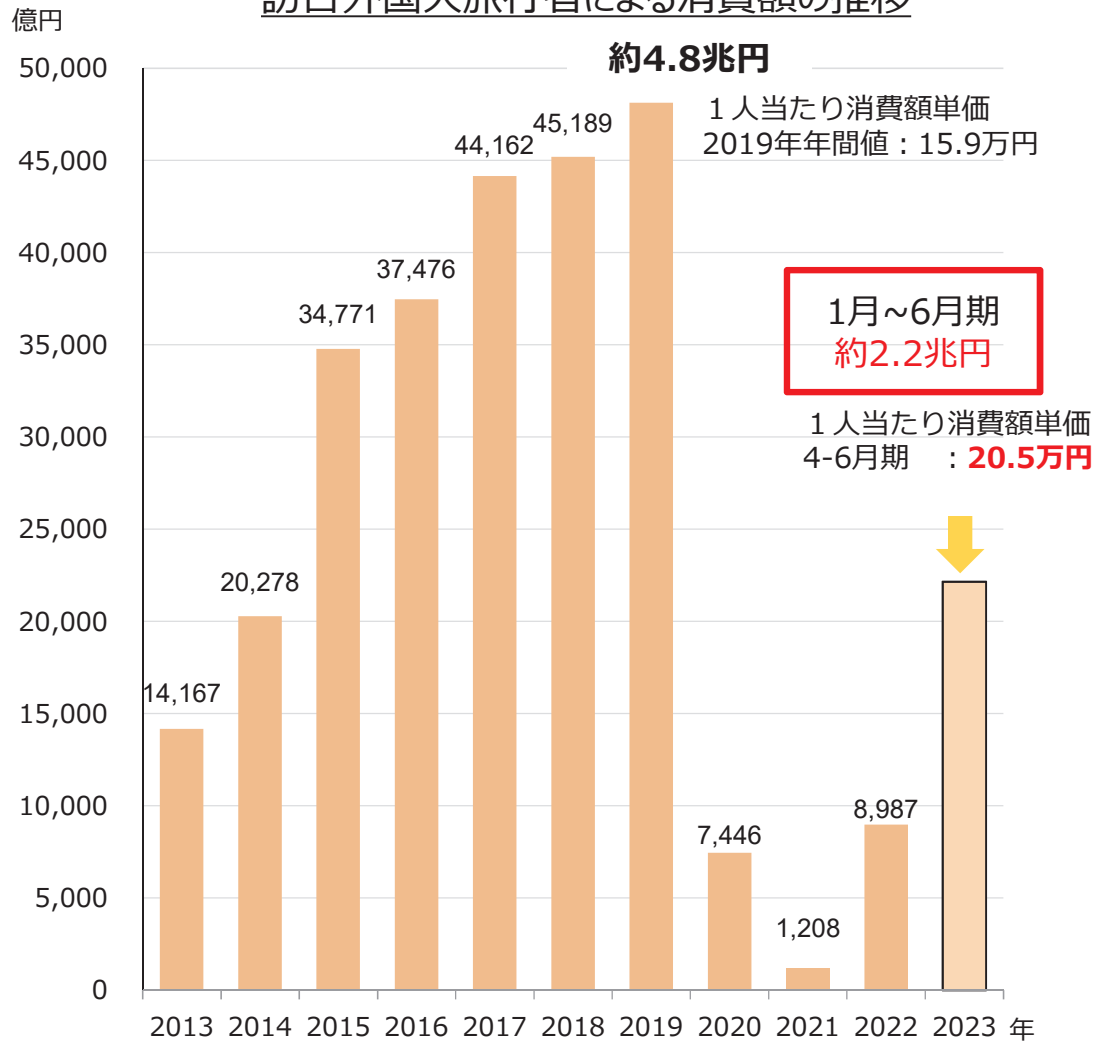
①韓国	63万人
②台湾	42万人
③中国	31万人
④香港	22万人
⑤米国	20万人

出典：日本政府観光局（JNTO）

# インバウンドの回復状況（消費額）

- 2023年4－6月期の訪日外国人消費額は、**2019年同期の約95%まで回復**
- 費目別割合をみると、買物代が大きく低下し、宿泊費、飲食費等が上昇
- 訪日外国人（一般客）一人当たりの旅行支出は、**2019年水準を超える20万5千円**となり、2019年同期比で**32%増**（2019年4-6月期は15万5千円） ※平均泊数が伸びたことや円安・物価上昇の影響等が考えられる

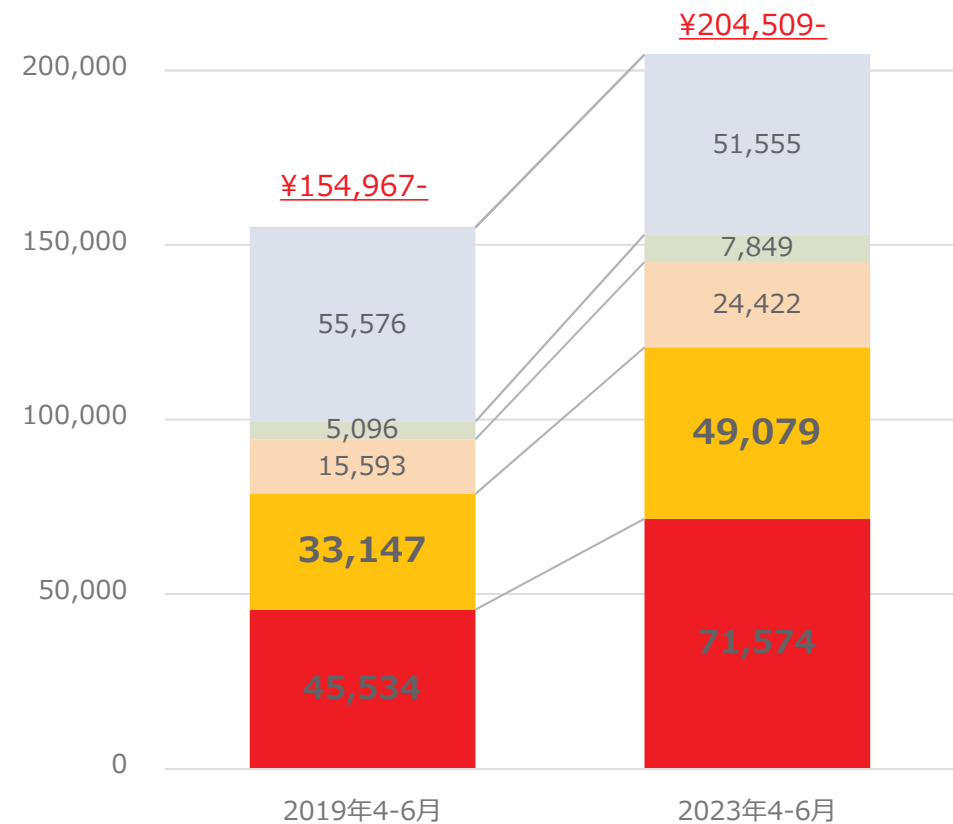
訪日外国人旅行者による消費額の推移



出典：「訪日外国人消費動向調査」より算出  
※2023年4月～6月の値は第一次速報値

費目別 1人1回当たり旅行消費単価

消費単価増加率：32.0%  
※為替変動の影響による増加（約20% ※観光庁試算）や物価上昇の影響が含まれる。

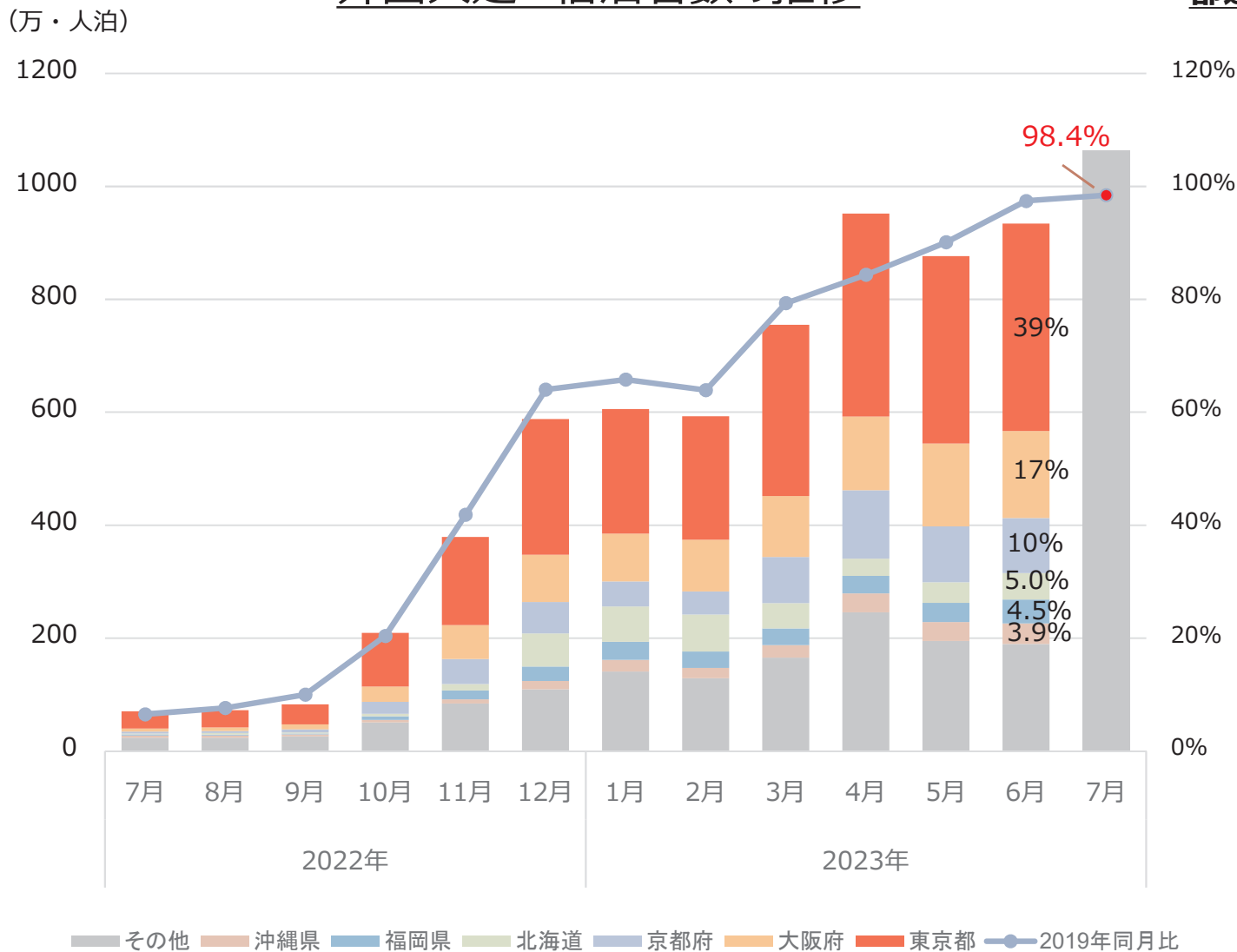


■ 宿泊費 ■ 飲食費 ■ 交通費 ■ 娯楽等サービス費 ■ 買物代 ■ その他

# インバウンドの状況（延べ宿泊者数）

- 2023年7月の外国人延べ宿泊者数は**1,063万人泊**で、**ほぼコロナ前水準まで回復**（2019年同月比98.4%）
- 他方、観光需要の回復状況は**宿泊先地域によって偏在傾向**が見られ、**三大都市圏のみで7割を超える**

## 外国人延べ宿泊者数の推移



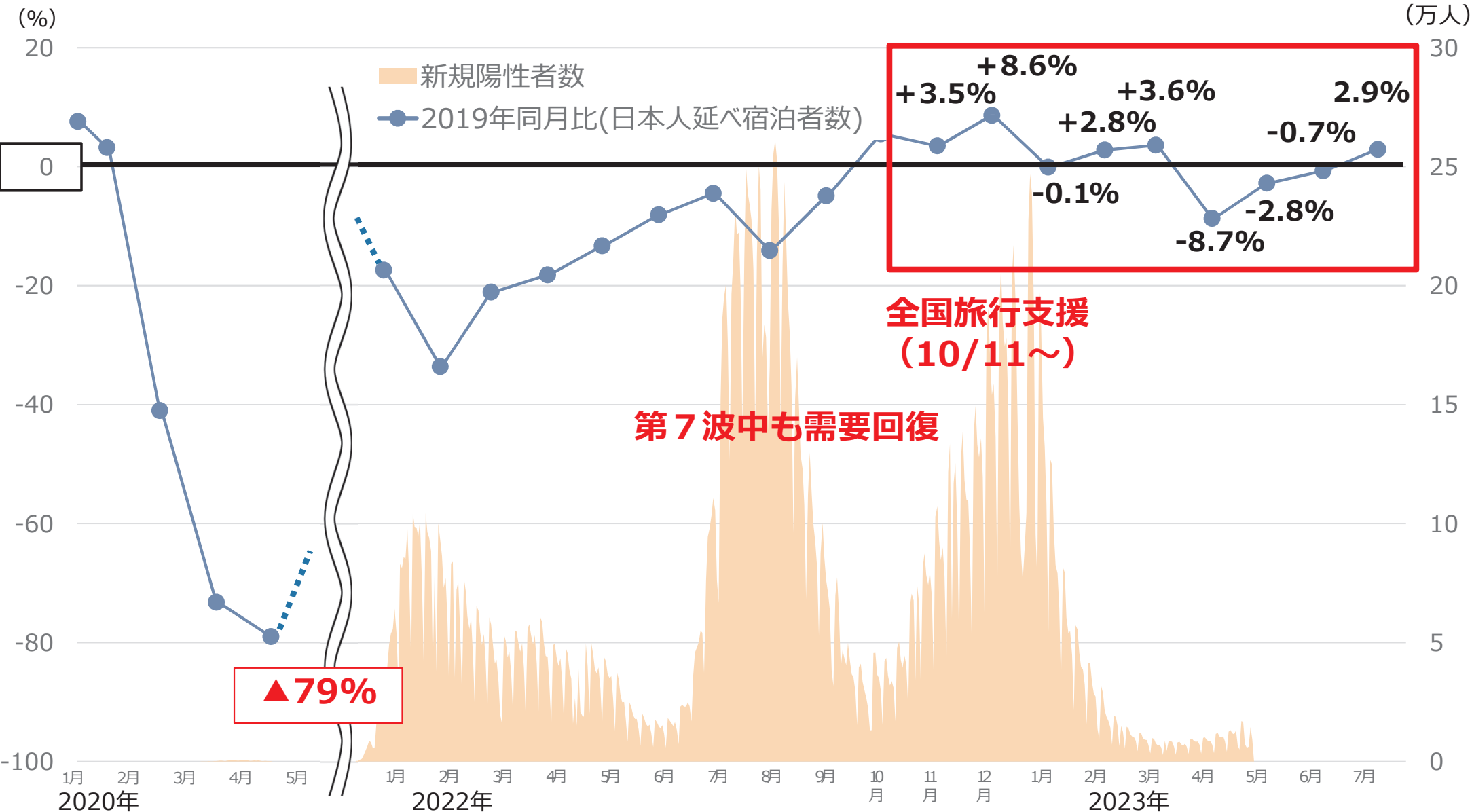
## 都道府県別外国人延べ宿泊者数（2023年6月）

三大都市圏 トップ5		
東京都	39%	367.1 万人泊
大阪府	17%	154.2 万人泊
京都府	10%	97.5 万人泊
千葉県	3.5%	32.2 万人泊
神奈川県	2.2%	20.9 万人泊

地方部 トップ5		
北海道	5.0%	46.4 万人泊
福岡県	4.5%	42.3 万人泊
沖縄県	3.9%	36.4 万人泊
大分県	1.0%	9.2 万人泊
広島県	1.0%	9.1 万人泊

# 国内旅行需要の回復状況（日本人宿泊者数の推移）

○ 全国旅行支援等の需要喚起策の効果もあり、コロナ禍前と同水準まで回復。

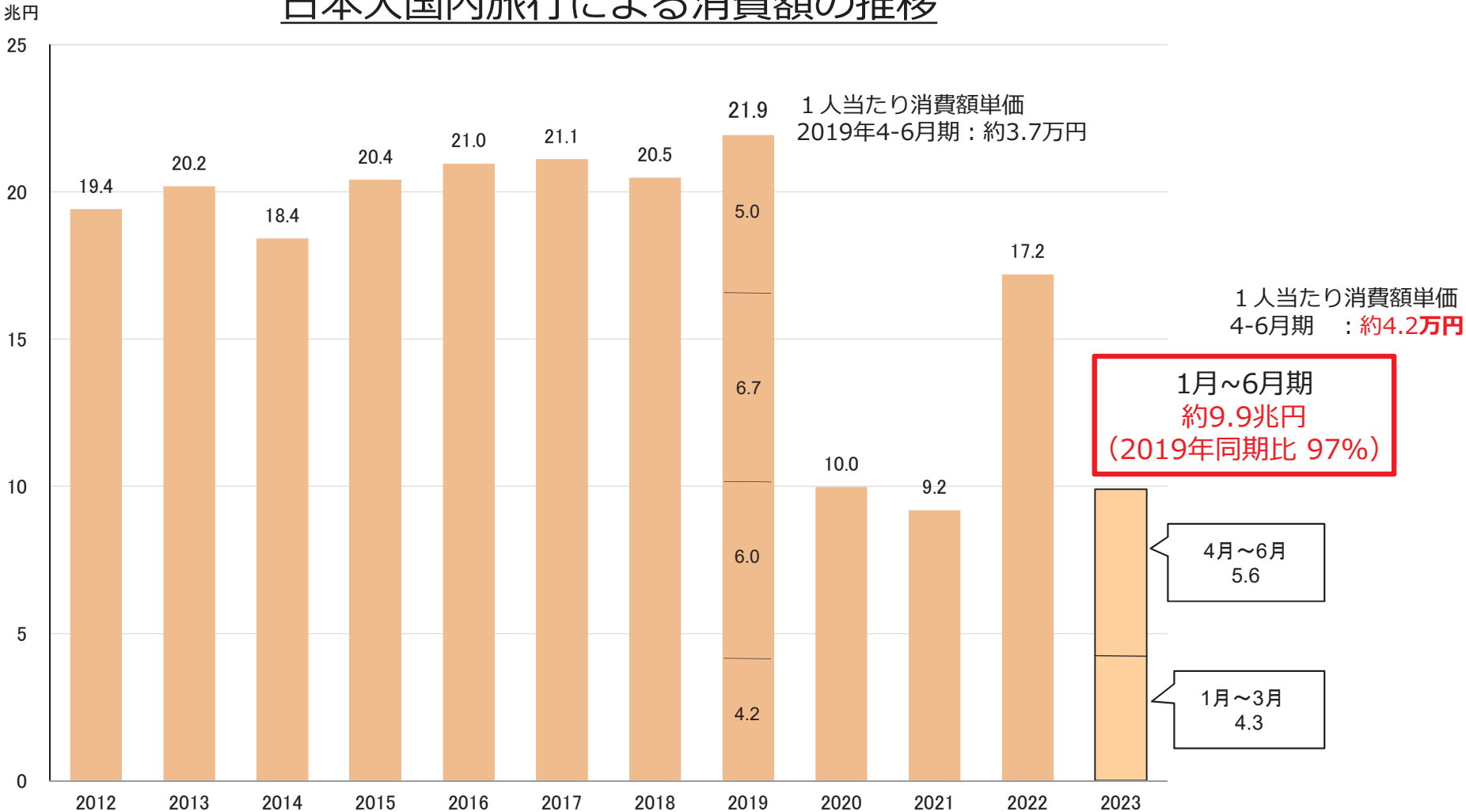


出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」、厚生労働省ホームページ

# 国内旅行需要の回復状況（消費額）

- 2023年上半期の国内旅行消費額は、**2019年同期比の約97%まで回復**
- 2023年4-6月期の国内旅行者一人当たりの旅行支出は、**2019年水準を超える約4万2千円**となり、2019年同期比で**約15%増**（2019年4-6月期は約3万7千円）

## 日本人国内旅行による消費額の推移



出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」※2023年4月～6月の値は速報値

1. 観光需要の動向
- 2. 観光客の増加に伴う課題**
3. これまでの対策



- 国内外の観光需要の急速な回復に伴い、多くの観光地が賑わいを取り戻している。
- 一方で、一部の地域・時間帯においては、混雑やマナー違反による地域住民の生活への影響や、旅行者の満足度の低下への懸念が生じている状況。

## 各地域における課題の例

### <混雑>

#### 【公共交通の混雑】

- 観光客が多い時期に、公共交通の混雑が発生。沿線住民から、電車やバスを利用しづらいとの声。

#### 【交通渋滞】

- 自家用車や観光バスによる交通渋滞が発生。
- 大型クルーズ船の入港時、多数の観光バスにより市街地で交通渋滞が発生。



駅改札付近の混雑状況

### <マナー違反>

#### 【私有地への無断侵入】

- 写真撮影のため、観光客が農家の所有地である畑や花畑に無断侵入する状況が発生。

#### 【路上等へのゴミのポイ捨て】

- 観光客が路上や用水路等にゴミを捨てるため、地域住民が拾わざるをえない状況が発生。



農地に立ち入るバスツアー観光客

## オーバーツーリズムの定義

- UNWTO（国連世界観光機関）は2018年9月に発行したリーフレット※において、以下の定義を引用。 ※「'Overtourism'? - Understanding and Managing Urban Tourism Growth beyond Perceptions」  
「観光地やその観光地に暮らす住民の生活の質、及び／或いは訪れる旅行者の体験の質」に対して、観光が過度に与えるネガティブな影響」

## 海外の事例

### スペイン・バルセロナ

- 大量に訪れる観光客による過度な混雑や景観破壊等の課題が社会問題化。
- こうした事態をうけて、観光地の事前予約制や時間ごとの人数制限の導入といった対策が講じられている。



### スイス・ツェルマット

- ガソリン車は数キロ離れた地点までしか乗入れられない「カーフリーリゾート」の1つ。
- ツェルマット内の移動は電気自動車または馬車。
- 多数回訪問すると「ロイヤルゲスト」として認定する等、リピーターを重視。



ツェルマットの電気自動車

1. 観光需要の動向
2. 観光客の増加に伴う課題
- 3. これまでの対策**

# 観光客の増加に伴う課題へのこれまでの対策

## マナー啓発

- ゴミのポイ捨てや無断写真撮影の禁止等のマナー啓発看板等を設置。外国人にもわかりやすい形で掲示。
- 多言語でSNS等で対外的に発信。



街中のマナー啓発の看板

## 入域料や入域制限の導入

- 環境保全活動費等への活用のため、訪問者に対して、任意の入域料を徴収。
- 一日あたりの入島者数の上限を定める計画を策定。



入域料を支払う様子

## 混雑の可視化による分散

- エリア別・時間帯別の混雑状況を可視化することで、時間・場所の分散化を促す取組を実施。
- 朝観光・夜観光の推進等による時間・時期の分散化を促す取組を実施。



混雑状況の可視化

### ○ 観光庁において、以下をはじめとする地域の取組を支援（今年度事業で補助）

- ・ 観光マナーを啓発するデジタルサイネージ・高札型看板や、観光バスの路上滞留を防止するための看板の整備（京都府京都市）
- ・ パークアンドライド駐車場の整備による自家用車からバスやレンタサイクルへの乗換えの促進（北海道美瑛町）

# ポストコロナを見据えた受入環境整備促進事業

○ポストコロナを見据え、観光地・宿泊施設・公共交通機関の各場面において、ストレスフリーで快適な旅行を満喫できる環境及び災害など非常時においても安全・安心な旅行環境の整備を行うとともに、オーバーツーリズムの防止等により、地域・旅行者の双方がメリットを享受できる環境づくりも念頭に、持続可能な観光地域づくりに資する環境整備の促進を図る。

## ● 持続可能な観光の促進に向けた受入環境整備の取組を支援

### ■ 自然環境、文化等の地域資源の保全・活用



- ・有料トイレの整備
  - ・入域料の徴収のためのシステム整備
- 等

### ■ オーバーツーリズムの未然防止



- ・混雑平準化のためのシステム（混雑状況の可視化等）の整備
  - ・マナー啓発に必要な備品、施設等の整備
  - ・パークアンドライド促進のための駐車場の整備
- 等

## ● 観光施設等における危機管理対応能力強化・訪日外国人患者の受入機能強化に向けた取組を支援

### ■ 危機管理対応能力強化



非常用電源

- ・避難所機能強化
  - ・災害時の多言語対応強化
  - ・衛生環境強化
- 等

### ■ 訪日外国人患者受入機能強化



“発熱”→ “fever”



- ・翻訳機器の整備
- 等

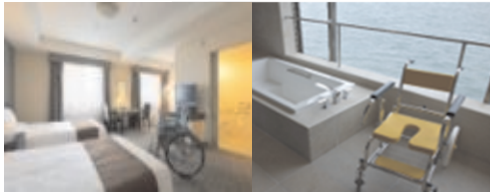
- 災害時等における観光危機管理計画の策定及び訓練の実施を支援

## ● 滞在・移動空間の快適性や利便性等の向上に向けた取組を支援

### ■ ストレスフリー・バリアフリーな宿泊環境整備

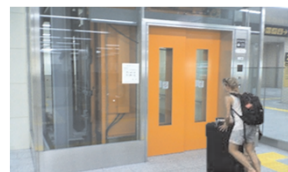


- ・非接触チェックイン
  - ・キーレスシステムの導入
- 等



- ・客室・浴室のバリアフリー化
- 等

### ■ 交通サービスの受入環境整備



- ・段差解消（エレベーター）



- ・UDタクシー



- ・携帯型翻訳機



- ・観光列車
- 等

【補助率 1/2、1/3 等】

※上記に加え、必要な調査・実証事業を実施

# 持続可能な観光推進モデル事業

- オーバーツーリズムの未然防止や、地域の自然・文化や生業等の保全・活用にかかる「持続可能な観光の推進」は世界的な関心が高まる中、インバウンドの再開の中で観光関係者が一体となって取り組むべき喫緊の課題。
- 人材育成支援等を通じた地域におけるマネジメント体制の構築を促進し、「持続可能な観光」を推進する上での裾野拡大を図るとともに、地域の課題解決の支援を通じて優良モデルの構築を行う。

(※) 国際観光機関（UNWTO）における「持続可能な観光」の定義：

訪問客、業界、環境及び訪問客を受け入れるコミュニティニーズに対応しつつ、現在及び将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光

## 持続可能な観光地域づくりに向けた課題

- ✓ 一過性の対応に終始するのではなく、長期的な視野に立った観光マネジメントの一環として、地域社会における経済利益・コミュニティ・旅行者・文化資源・環境等に対する利益の最大化等の様々な側面への影響を考慮し、地域の観光関係者等が共通の目的や役割を共有しながら、計画の策定・推進に取り組むことが必要。



<混雑>



<マナー違反>

### 【主な事業】

#### ① 持続可能な観光の推進における優良モデルの構築

持続可能な観光地マネジメントが期待できる自治体等において、実証事業を通じてオーバーツーリズムの未然防止等の地域の課題解決に取り組み、より強固な観光地マネジメントを確立する優良モデルの構築を行う。

#### ② 持続可能な観光の推進に意欲的な地域を対象とした人材育成

地域の観光関係者に対し、日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に基づく持続可能な観光を実践する研修プログラムの実施等を行う。



日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）